

理学専攻 M2 アンケートの集計と分析

このアンケートは平成 29 年 3 月に修了した自然科学研究科理学専攻の大学院生を対象としたアンケート調査である。アンケートの回答結果は、理学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

提出期限: 2016 年 2 月 17 日 (水)

提出場所: 理学系教務係

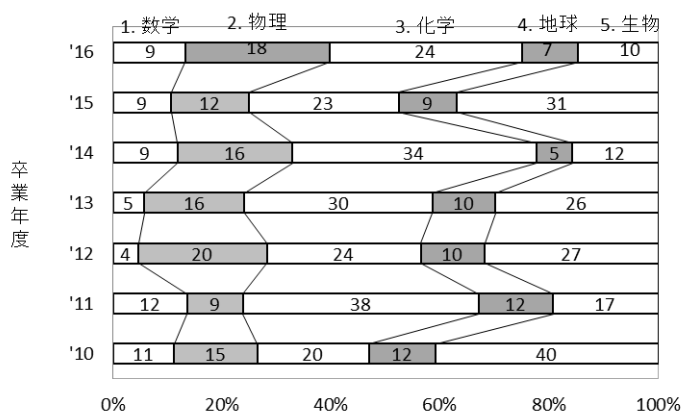
結果、68 名から回答を得ることができた。回収率は 85%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。

あなたの研究分野は何ですか

- 1. 基礎数理 2. 物理科学 3. 化学
- 4. 地球環境科学 5. 生命科学

アンケート回答者数の分野ごとの数値である。

数学や化学、地球の各コースの院生の数は昨年度と変わらず、おおよそ横ばいであった。これらとは対照的に、物理コースの院生数は、昨年度の 3 分の 2 まで、生物コースの院生数は昨年度の 3 分の 1 まで減少している。



A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

回答・意見など：64件

多くあった意見をまとめると以下のようになる。

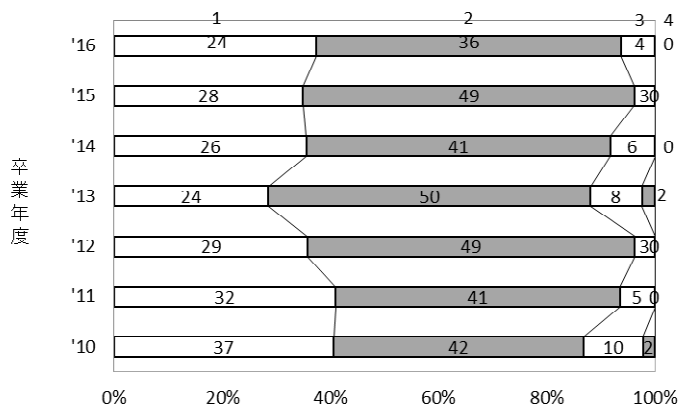
研究を深めたい（継続したい）	36件
勉強したかった （スキルアップのため、研究活動に興味があった等）	12件
学部と同じ環境で学びたい	10件
学部と同じ先生に学びたい	5件

B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。（該当しない人は次ページの質問（B7）に進んで下さい）。

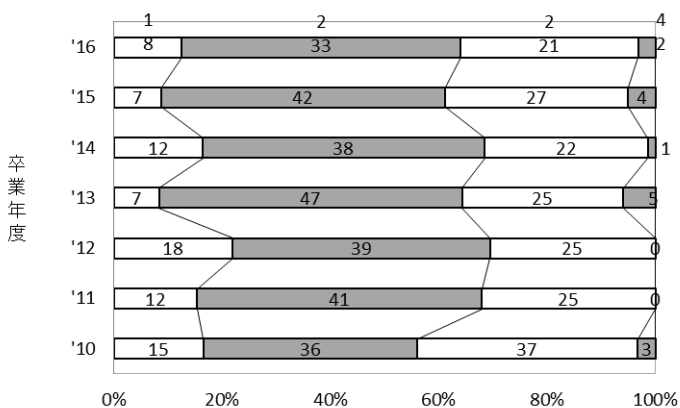
(B1) あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学習・研究に有益でしたか。

1. 非常に有益だった
 2. 有益だった
 3. あまり有益ではなかった
 4. 有益ではなかった
- 意見など：9件



(B2) あなたの専門分野外の学部の専門科目（専門基礎科目も含む）は、大学院での学習・研究に有益でしたか。

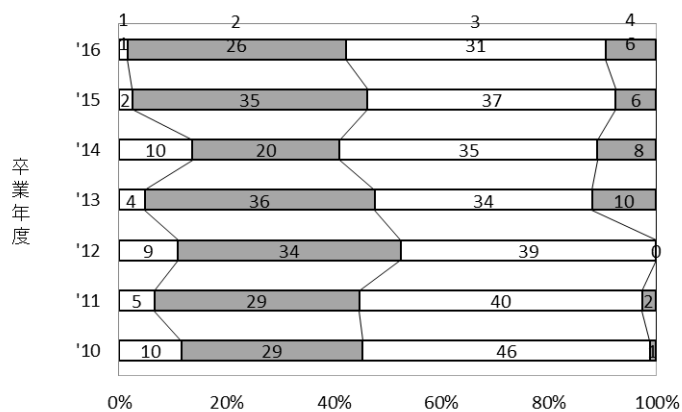
1. 非常に有益だった
 2. 有益だった
 3. あまり有益ではなかった
 4. 有益ではなかった
- 意見など：10件



(B3) 教養教育での学習は、大学院での学習・研究に有益でしたか。具体的な事例があれば、自由記述欄にお書き下さい。

- 1. 非常に有益だった
- 2. 有益だった
- 3. あまり有益ではなかった
- 4. 有益ではなかった

意見など：9件

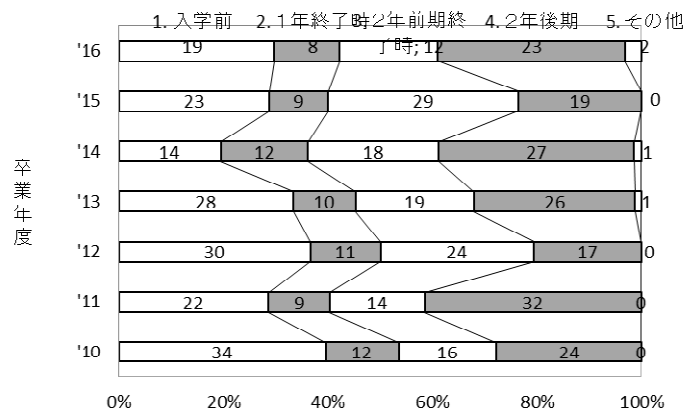


専門分野に関連する学部の専門科目は「有用」と「ある程度有用」で約9割を占めている。一方、専門分野外の専門科目ではここ2年は70%程度になっている。教養教育に関しては、有用だったとする割合が今回はほぼ半数であった。

(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか。

- 1. 入学前
- 2. 1年終了時
- 3. 2年前期終了時
- 4. 2年後期
- 5. その他

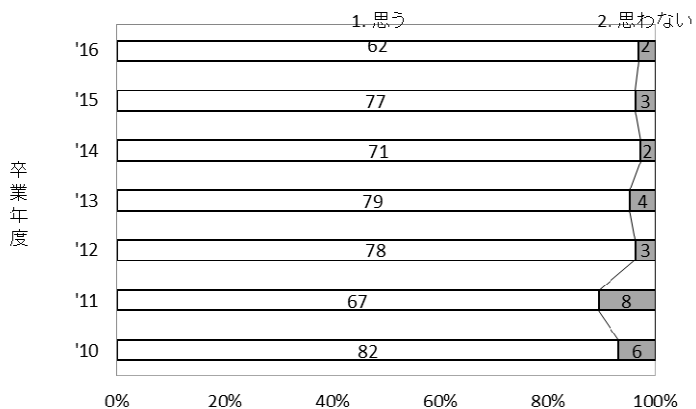
意見など：5件



(B5) 今かえりみて、専門分野の選択は自分にとってよかったと思いますか。

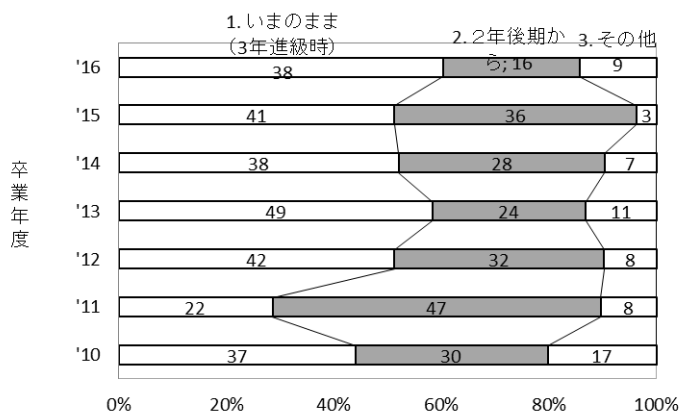
- 1. 思う
- 2. 思わない

意見など：4件



(B6) 現在、3年進級時にコースを選択していますが、今かえりみていつがよかったと思いますか。

1. いまのまま (3年進級時)
 2. 2年後期から
 3. その他
- 意見など：16件



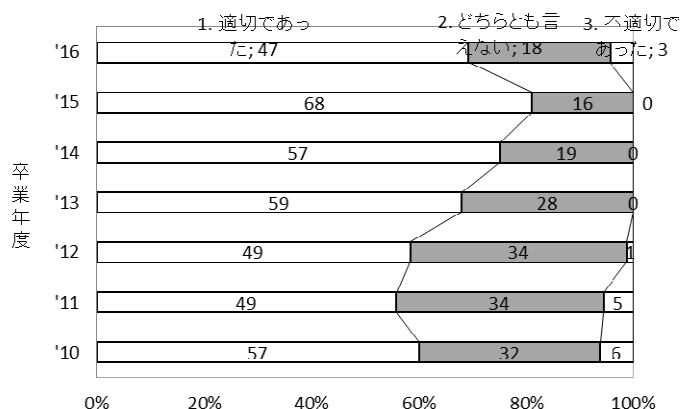
今年度に関しては、約半数は1年次終了までに専門分野を決めている。逆に考えると半数の人は2年生以降に専門分野を決めており、大学1、2年次が専攻の選択に重要であることが伺える。専門分野の選択に関しては、ほとんどの院生が満足している。今回は「思わない」としている回答はほとんどなかった。

選択の時期に関する問については、昨年度は「2年後期から」が非常に多くなっていたが、今回は「いまのまま」が半数である。今後の推移を見守る必要がある。

自然科学研究科での授業についてお聞きします。

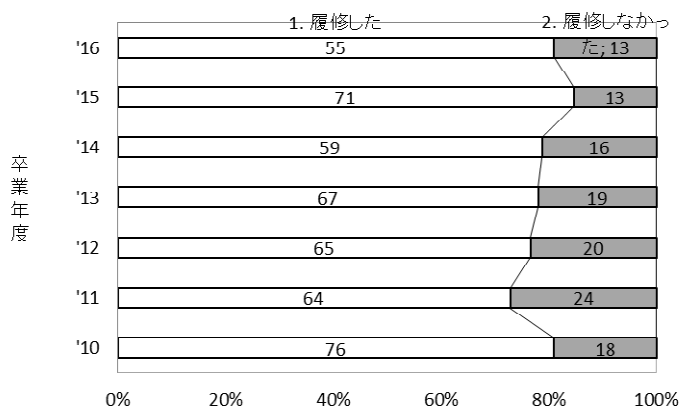
(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 適切であった
 2. どちらとも言えない
 3. 不適切であった
- 意見など：9件



(B8) 理学・数学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は、科目数もお書き下さい。また、集中講義に対して具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 履修した (科目数：回答数 66件)
 2. 履修しなかった
- 意見など：7件



必修と選択の割合については、約60%が「適切」としている。「不適切」の回答はほとんどなかった。また、集中講義は7割以上の院生が履修しており、大学院教育の重要な部分を担っていることがわかる。科目数としては1-3科目と答える学生が多いが10科目という院生もいた。

(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

科目名, 意見など 40 件

(B10) 博士前期課程 2 年生で授業（特別研究やゼミナールを除く）を何科目履修しましたか。

科目数：平均 2.4 科目（うち集中講義 平均 1.4 科目）

回答数：60 件

意見など：3 件

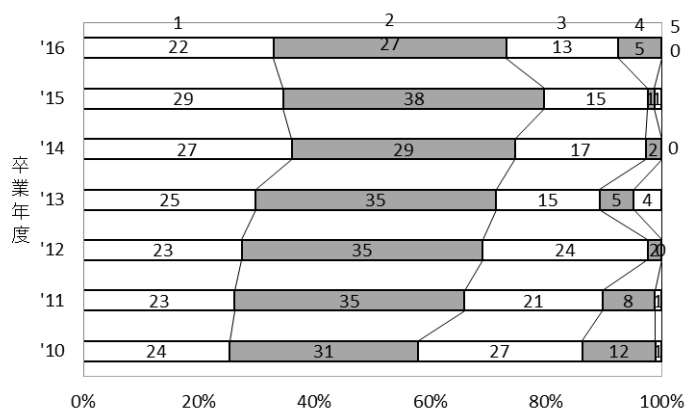
科目数としては 1-2 科目の学生が多いものの、10 科目以上履修している院生もいる。集中講義に関しても 1~2 科目の学生が多く 9 割に達している。

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは

如何でしたか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：6 件

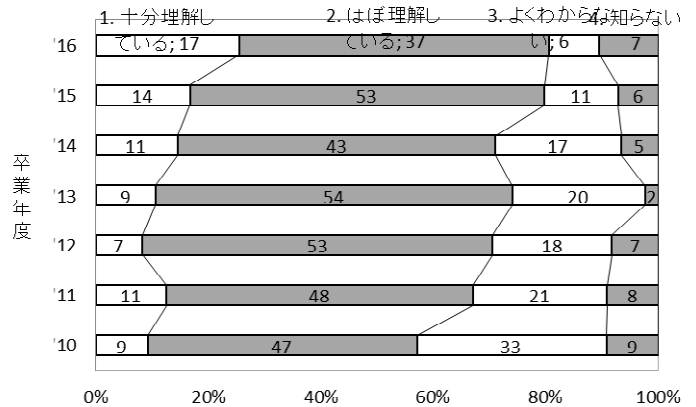


「満足」「どちらかといえば満足」の学生が 6 割を越えて増加傾向にある。「どちらとも言えない」という回答を更に減らしていく必要がある。

自然科学研究科の教育全般についてお聞きします.

(B12) 自然科学研究科の教育目的「総合的視野のもとに問題を解決し、広い分野で活躍することのできる高度専門職業人として育成する。」は理解していましたか.

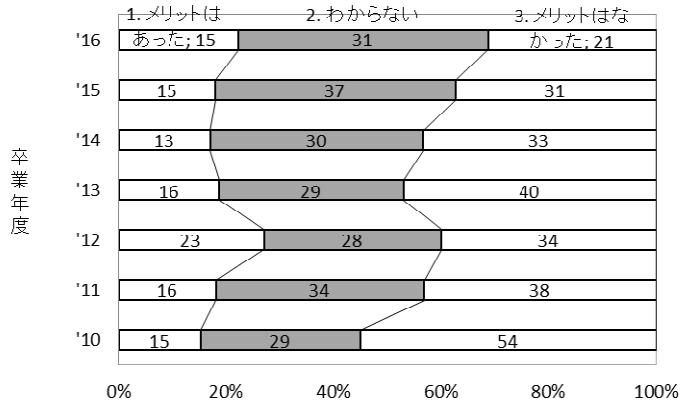
- 1. 十分理解している
 - 2. ほぼ理解している
 - 3. よくわからない
 - 4. 知らない
- 意見など : 2 件



「十分理解」「ほぼ理解」で 8 割近くに達しており、年々改善の方向にあるとみなせる。一方で「よくわからない」も存在しており、今後も周知徹底などの対策が必要である。

(B13) 自然科学研究科は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか.

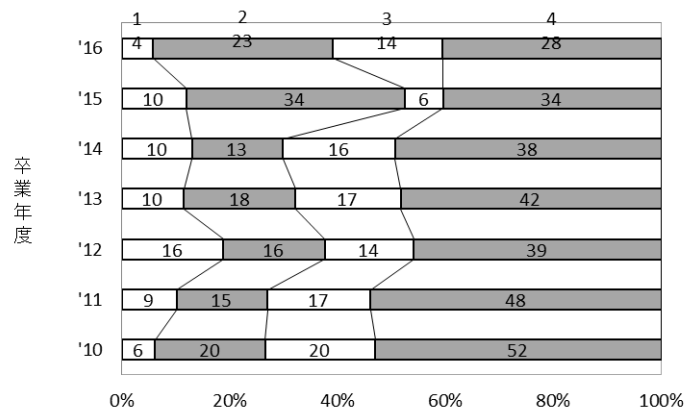
- 1. メリットはあった
 - 2. わからない
 - 3. メリットはなかった
- 意見など : 15 件



「メリットがあった」とする割合が 20% 未満であり、年々「わからない」とする回答も増加している。この点に関しては、自由記述欄からも伺える。やはり、システムに関する学生への情報提供を今後精力的に行う必要がある。

(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか.

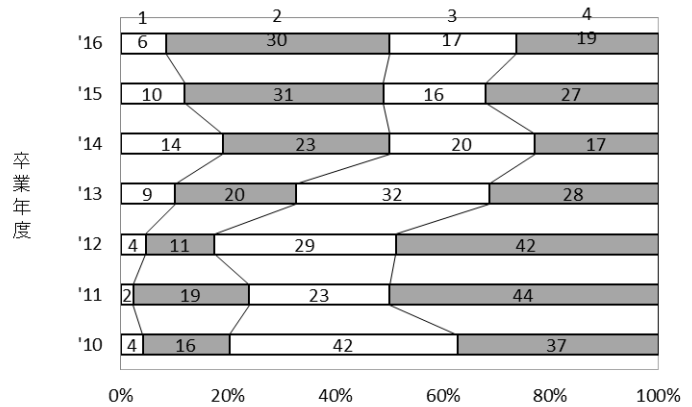
- 1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
 - 2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
 - 3. 学術以外の交流があった
 - 4. 全くなかった
- 意見など : 4 件



工学系の大学院生と何らかの交流がある院生が 4 割近くとなっている。特に一緒に研究した院生の数が増えている。

(B15) 理学専攻の他コースの大学院生との学術的交流はありましたか.

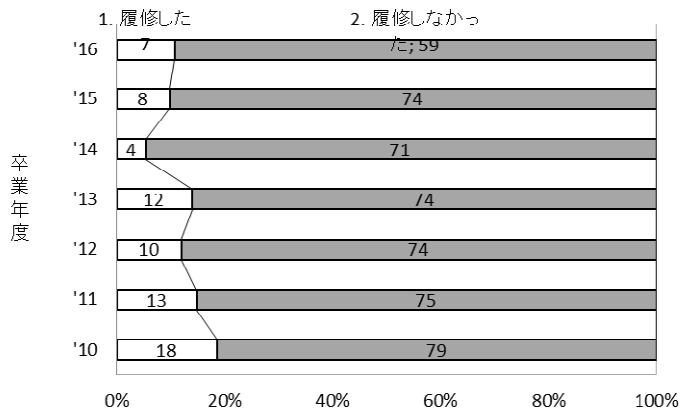
1. 一緒に研究した
 2. 一緒に授業を履修した
 3. 学術以外の交流があった
 4. 全くなかった
- 意見など：2件



理学専攻の中でも他コースと何らかの交流がある院生は5割に留まっている。「全くなかった」との回答も多い。専門性が進むにつれて、コース間の隔たりも多くなるため致し方ない傾向かもしれない。しかしながら、専門に固守するのではなく、様々な分野の情報を入手する習慣をつけ、ブレークスルーを見つける訓練も必要かもしれない。

(B16) 他専攻（複合新領域専攻や工学系の専攻）の授業科目は履修しましたか.

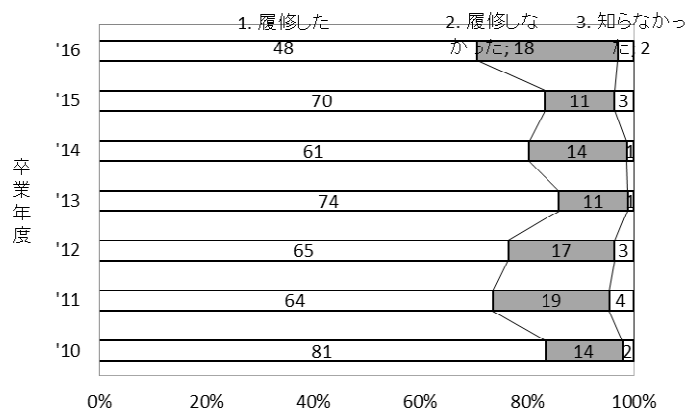
1. 履修した (科目数：回答数7件)
 2. 履修しなかった
- 意見など：2件



他専攻を履修した学生数は、過去五年間で大まかに減少傾向を示す。科学的な思考を涵養する上で、様々な考え方に触れるのは大事なことで、今後の改善が望まれる。

(B17) 全専攻共通科目のうちコース指定のない科目（プロジェクトゼミナール、特別プレゼンテーション、科学英語演習など）は履修しましたか.

1. 履修した (科目数：回答数41件)
 2. 履修しなかった
 3. 知らなかった
- 意見など：4件

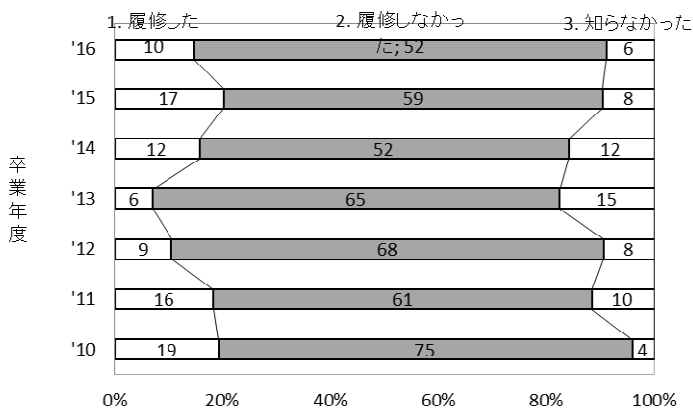


7割以上の院生が履修しており、プロジェクトゼミナールの履修などが定着していると思われる。

(B18) 全専攻共通科目のうち高度教養科目、外国語リテラシー科目、総合科学 A~C、IJEP 科目、MOT 科目は履修しましたか。

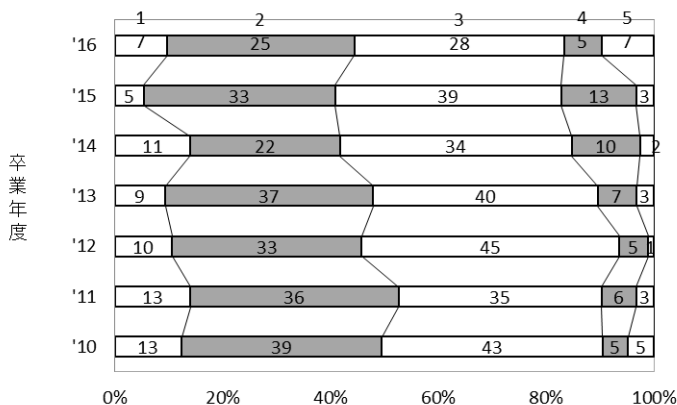
1. 履修した (科目数 : 回答数 10 件)
 2. 履修しなかった
 3. 知らなかった
- 意見など : 3 件

(B17)と対照的に履修した院生の割合はかなり少ない。



(B19) 自然科学研究科が進めている授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。(複数選択可)

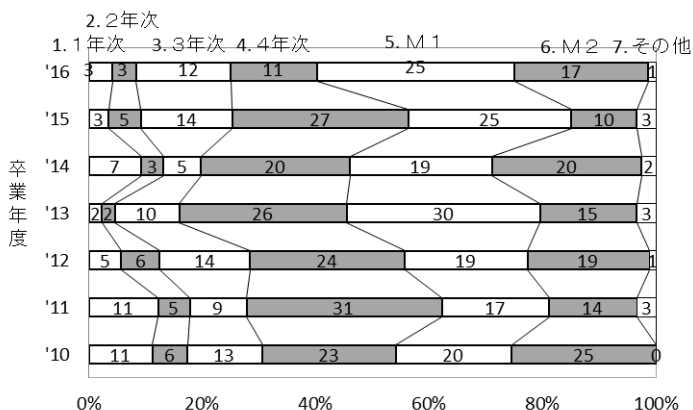
1. 全て英語が良い
 2. 専門用語は英語が良い
 3. 基礎的な内容は日本語が良い
 4. 全く必要ない
 5. その他
- 意見など : 11 件



「基礎的な内容は日本語が良い」とする院生が多い一方で、「全て英語」「専門用語は英語が」と答える院生が 4 割いることは重要である。大学院教育における英語の使い方を検討すべきだろう

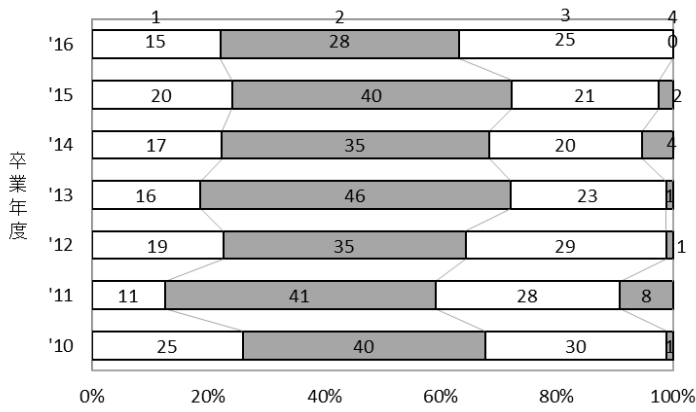
(B20) 学部・大学院の 6 年間の中で勉強意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

1. 1 年次
 2. 2 年次
 3. 3 年次
 4. 4 年次
 5. M1
 6. M2
 7. その他
- 意見など : 7 件

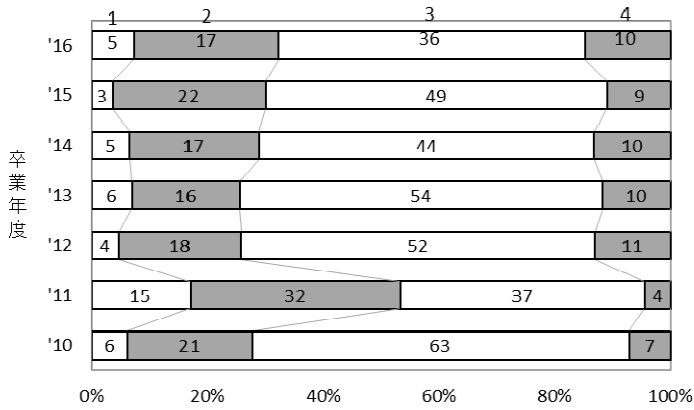


今年度に関しては、「4 年次」「M1」「M2」がほぼ拮抗している。やはり研究室で研究を行うようになってから、勉強意欲が上がっているものと思われる。

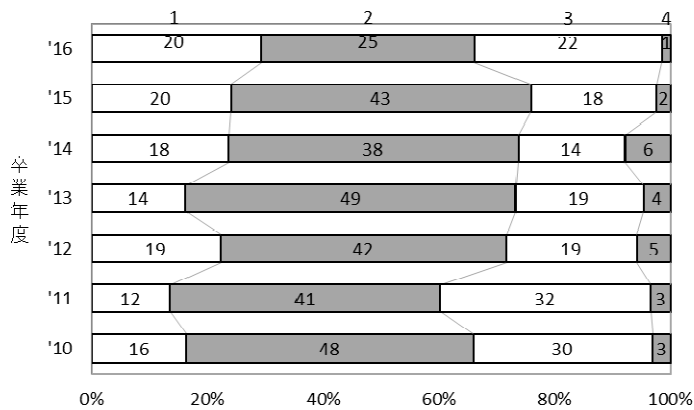
c. 技術・技能：



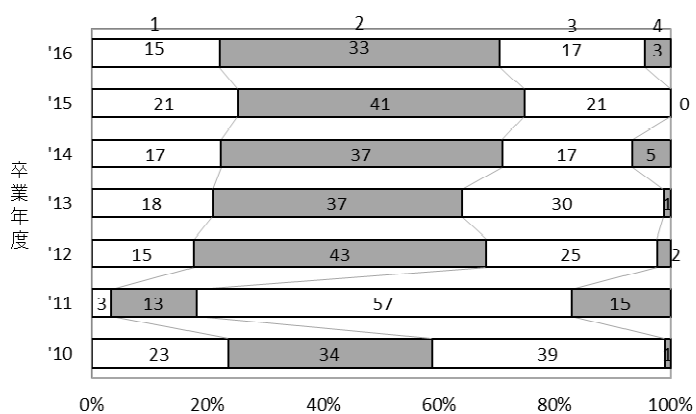
d. 英語を含めた外国語運用力：



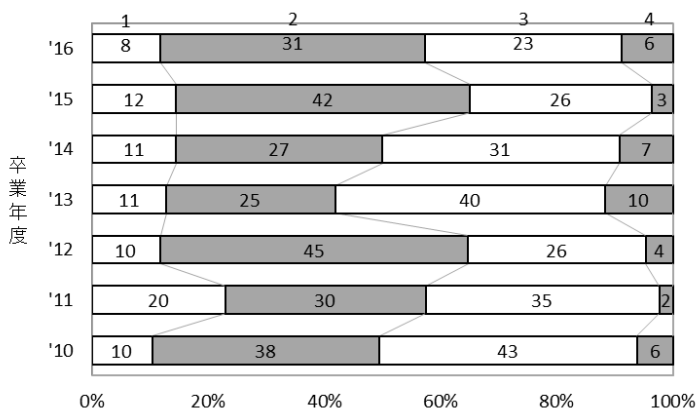
e. 一般的なコミュニケーション力：



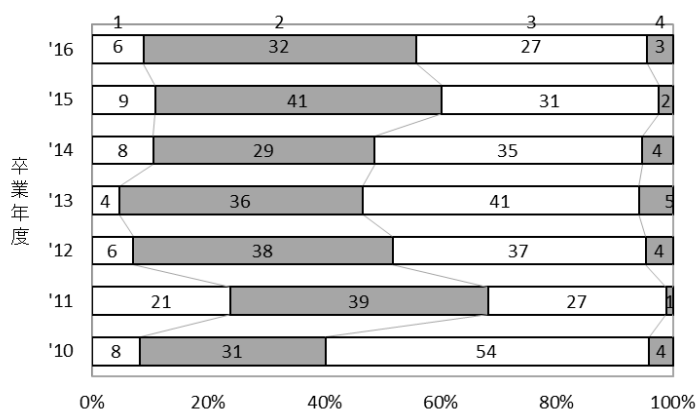
f. プレゼンテーション力 :



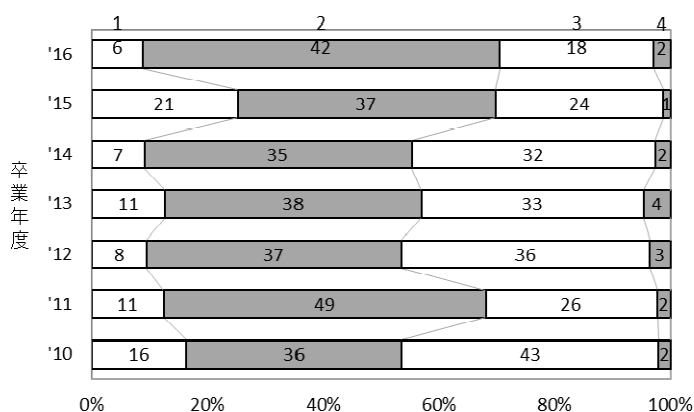
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力 :



h. 独創性・発想力 :



i. 課題発見・解決力：

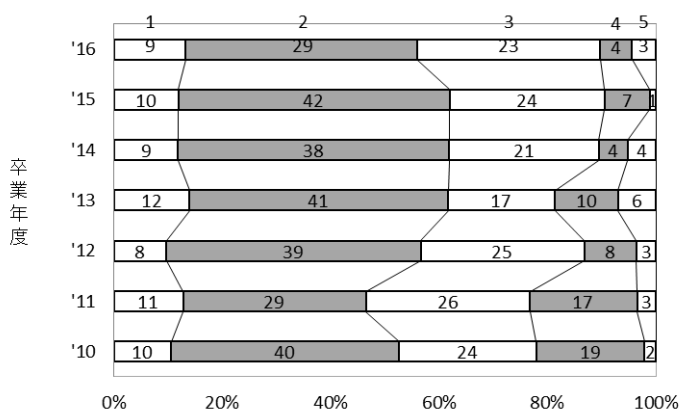


全体的な傾向は一昨年度と同様だった。昨年度だけが少し異なる傾向を示しているのかについては、今後継続的に注視していく必要がある。

(B23)博士前期課程を修了するにあたり、修士としての専門能力が身に付いたと思いますが、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：3件



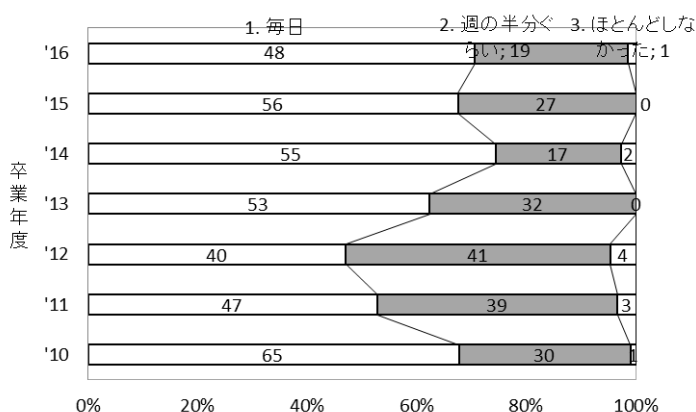
「満足」「どちらかといえば満足」を足し合わせると50%強であるのは、例年の事である。満足度という抽象的な言葉に対して、回答者によって基準が変わっているのかもしれない。設問の見直しが必要かもしれない。

修士論文の研究および研究指導体制やシステムに関してお聞きします。

(B24) 修士論文の研究に平均としてどれだけ費やしましたか。

1. 毎日
2. 週の半分ぐらい
3. ほとんどしなかった

意見など：2件



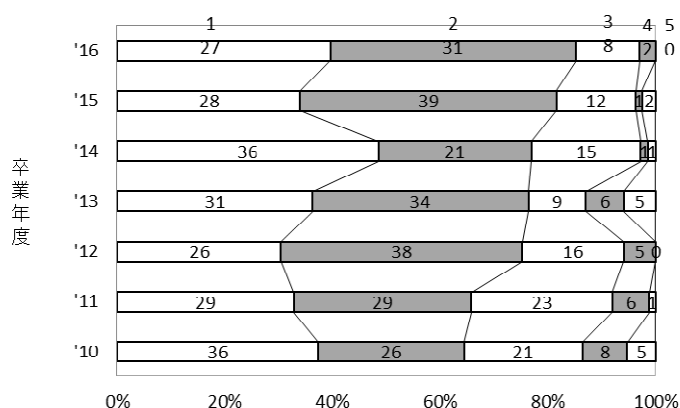
「毎日」とする学生が約半分であり、残りの半分は週の半分以下しか研究に使っていない。また、「毎日」の割合がだんだんと減っている。これは就職活動の長期化によるものが大きいと思われる。

るが、詳細な検討が必要かもしれない。設問が毎日か半分しかないので、「3/4 程度」も必要かもしれない。

(B25) 大学院での研究指導体制に対して満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

意見など：1 件



「どちらかといえば満足」以上の回答が 7 割を越えている。今後は、「どちらとも言えない」とする人の数を減らしていく努力が必要であろう。不満足である理由も聞くべきかもしれない。

(B26) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表、学会発表、セミナーなど）があれば記述して下さい。

項目：44 件

中間発表や学会発表などの発表を挙げたものが多かった。セミナーおよびプロゼミも多い。発表することが研究に重要であることは伝わっているものと思われる。

C. 修了後の進路について

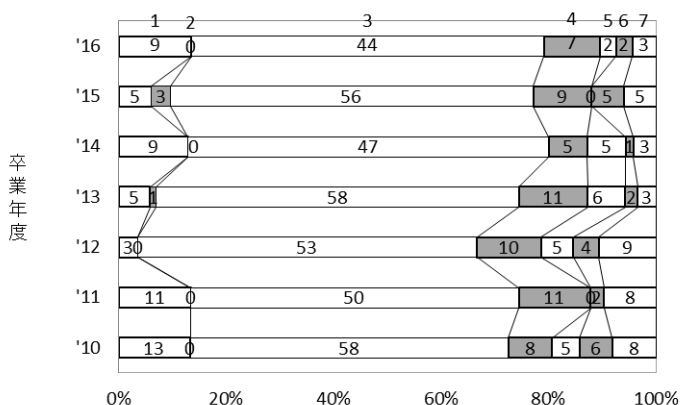
(C1) あなたの 4 月以降の進路は何ですか。

[大学院博士後期課程へ進学]

1. 熊本大学
2. 他の大学

[就職]

3. 民間企業
4. 教職
(非常勤および臨時採用を含む)
5. 公務員
6. その他の就職先
7. その他（進学・就職以外）：3 件



例年ほぼ同様の傾向で、民間企業に就職する院生が多い。教職や公務員も大学院生の進路として一定数あることは、重要である。

(C2) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きします。進学をいつ決めましたか。

回答数：9 件

大学入学時（1名）

学部生時代（2名）

M1（4名）

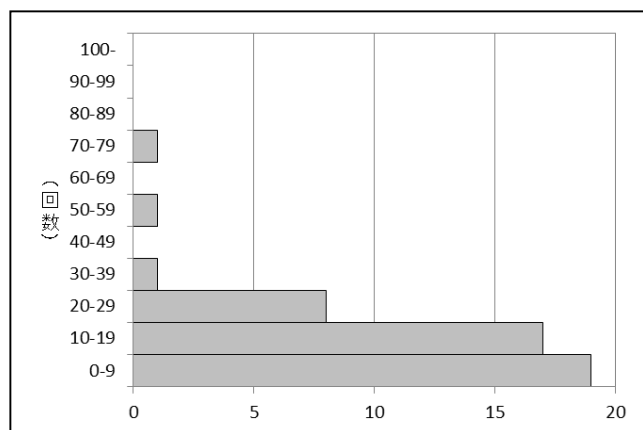
M2（2名）

母集団が少なく傾向を読み取るには至らない。強いてあげるなら、博士前期課程の1年次が若干重要な感じがある。

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C3) 就職活動（面接や企業訪問など）のため、企業を何回訪問しましたか。

回答数：47 件



ピークは 10-19 回にあるが、0-9 回、20 回以上という院生も多い。

(C4) 就職活動をおこなった期間はいつですか。

開始時期	人数
平成 26 年 3 月	1
平成 27 年 3 月	3
平成 27 年 6 月	1
平成 27 年 8 月	4
平成 27 年 12 月	4
平成 28 年 1 月	3
平成 28 年 2 月	3
平成 28 年 3 月	27
平成 28 年 4 月	2
平成 28 年 5 月	1
平成 28 年 6 月	1

終了時期	人数
平成 27 年 5 月	1
平成 27 年 6 月	2
平成 27 年 8 月	1
平成 28 年 3 月	1
平成 28 年 4 月	1
平成 28 年 5 月	6
平成 28 年 6 月	24
平成 28 年 7 月	5
平成 28 年 8 月	5
平成 28 年 9 月	2
平成 28 年 10 月	1
平成 28 年 11 月	1

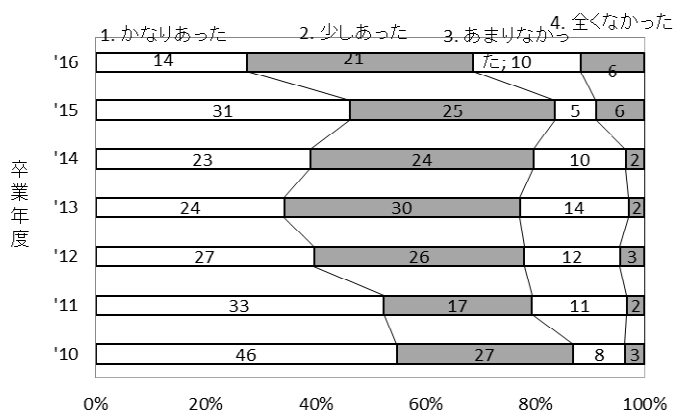
意見など：3 件

就職活動の開始時期は、M1 の 12 月から M2 の 1 月であることがわかる。一方、終了時期はもう少し広く分散しているが、大体 M2 の 4-6 月である。遅い人では、M2 の年末や 25 年という人もおり、就職活動期間の長期化が懸念される。

(C5) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

- 1. かなりあった
- 2. 少しあった
- 3. あまりなかった
- 4. 全くなかった

意見など：5 件

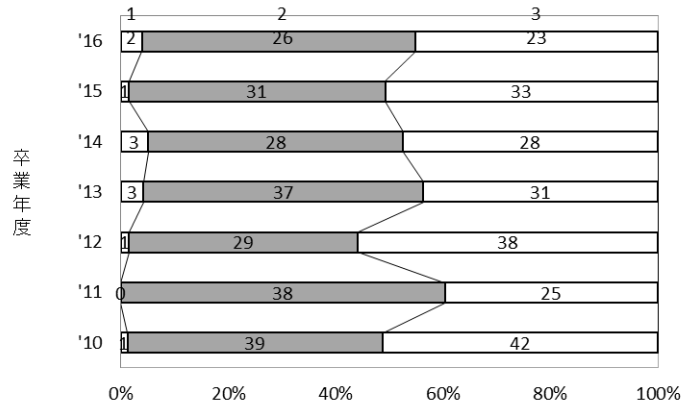


(C4)の結果から、就活が授業や研究に影響があることは容易に予想される。実際、(C5)の結果は、「かなりあった」、「少しあった」で8割に達している。熊本大学だけではなく、日本の大学全体の大きな課題である。

(C6) 現在理学部では特定の企業に対して学部長推薦の枠もあります。利用しましたか。

1. 学部長推薦を利用した
 2. 学部長推薦があることは知っているが利用しなかった
 3. 知らなかった
- 意見など：2件

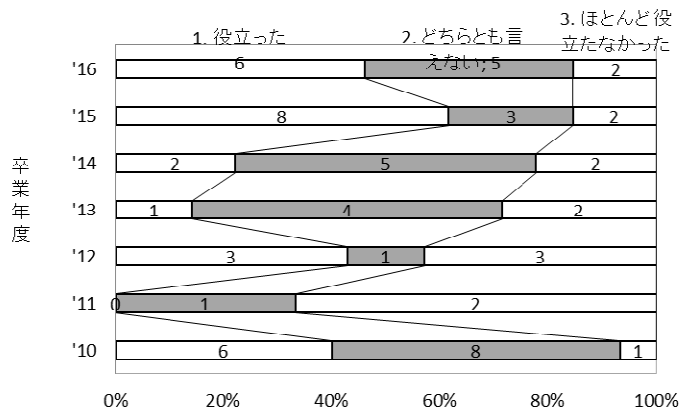
学部長推薦を利用した人は今年度2名であった。今後も周知を徹底するとともに、就職支援の充実を進める必要がある。



(C7) 大学院で学外特別演習(インターンシップ)を履修した人にお聞きします。(教育インターンシップも含みます)卒業後の進路を決める上で役立ちましたか。

1. 役立った
 2. どちらとも言えない
 3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：4件

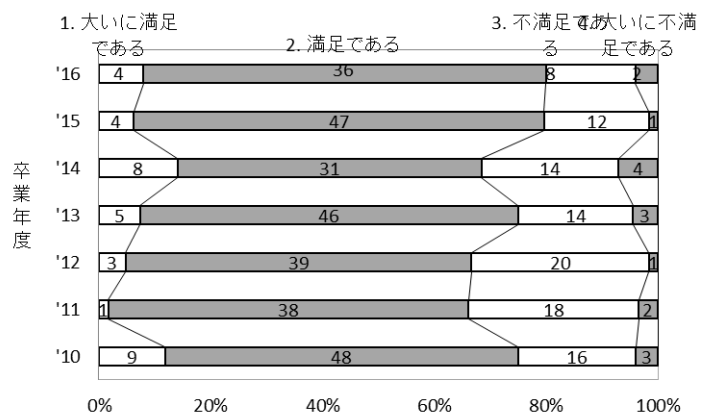
昨年度「役立った」との回答は8名、今年度は6名であり、ほぼ同様であった。全体の数が少ないためか、過去7年間の年度ごとのぶれが大きくなっている。



(C8) 就職相談・キャリア支援の体制および情報には満足でしたか。

1. 大いに満足である
 2. 満足である
 3. 不満足である
 4. 大いに不満足である
- 意見など：6件

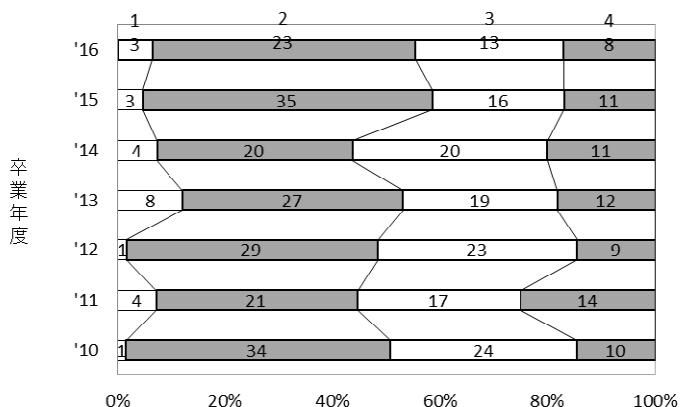
「満足である」の割合が昨年、今年と少し下がっている。今後も推移を見守る必要があるだろう。



熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします（該当しない学生は（D1）に進んで下さい）。

（C9）就職活動で数学・理科の専門基礎を幅広く学んだことが役に立ちましたか。

1. 採用の決め手となった
 2. ある程度役にたった
 3. どちらもとれない
 4. 役に立たなかった
- 意見など：2件

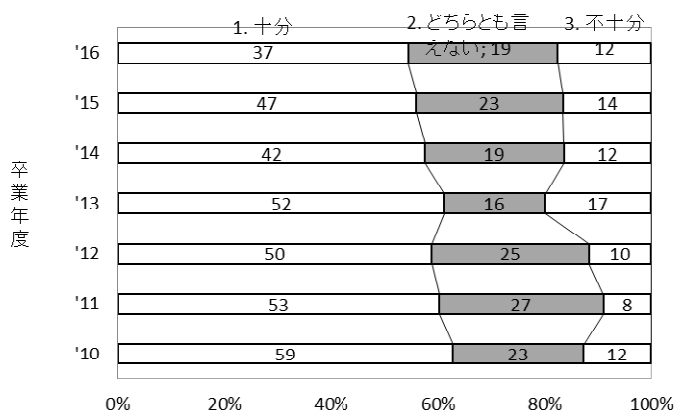


「採用の決め手となった」は3名だけですが、「ある程度役にたった」までいれると約半数であり、ある程度の評価を受けている。一方、これは半数の人は価値を見いだしていないことを表しており、今後検討する必要がある。

D. 学習環境や学生生活について

（D1）自主的に学習できる場所や施設は十分ですか。必要なものがあれば挙げて下さい。

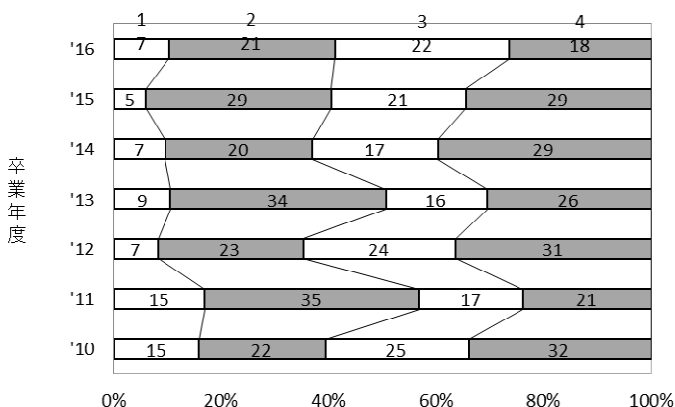
1. 十分
 2. どちらとも言えない
 3. 不十分
- 意見など：7件



「十分」が6割であるが、「どちらとも言えない」や「不十分」も多い。学部生の1～3年次における学習環境の確保を望む学生が多く見受けられた。空き部屋等の有効活用を検討する必要があるのかもしれない。

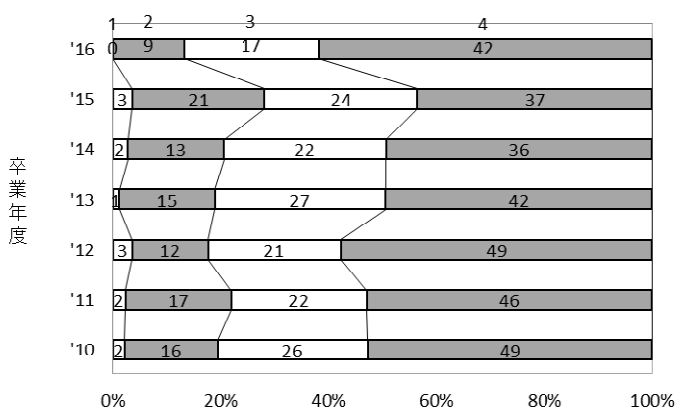
（D2）在学中は、学生生活を続けていく上で、経済的な問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：5件



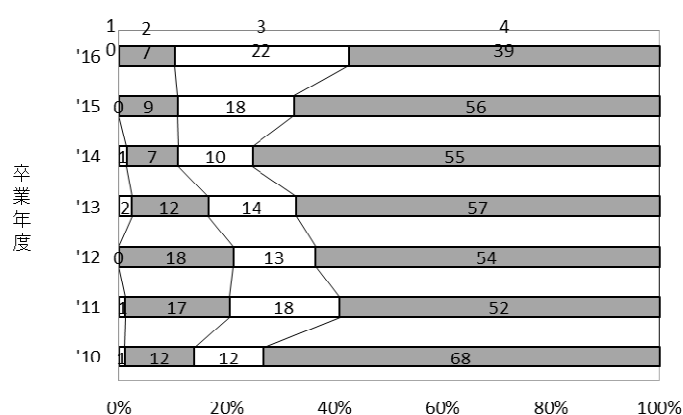
(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか.

1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：3件



(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか.

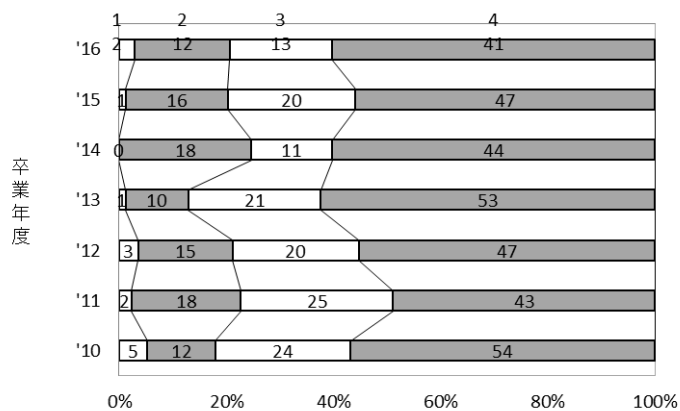
1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：5件



「少しだけあった」と「全くなかった」を足すと 80%を超え、比較的住環境等に問題を抱えている学生が少ないことが分かる。しかし、依然として2割くらいの学生は時々問題があったと答えている。大学院生は、学部生と異なり遅くまで実験等で居残るため、その辺のケアをどのように解決するか検討する必要があるかもしれない。

(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか.

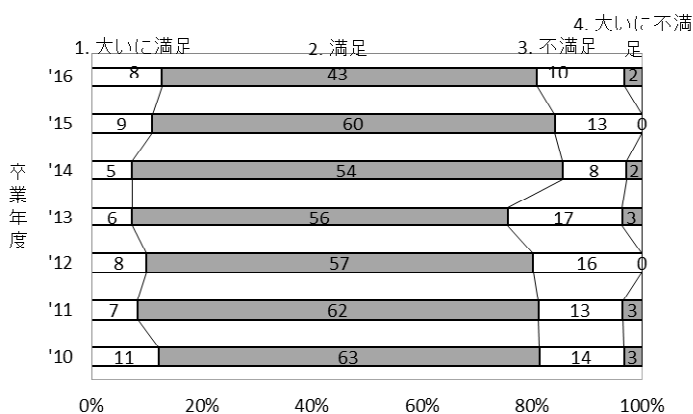
1. ほぼ全期間にわたってあった
 2. 時々あった
 3. 少しだけあった
 4. 全くなかった
- 意見など：4件



(D6) 健康相談の体制には満足できましたか。

- 1. 大いに満足である 2. 満足である
 - 3. 不満足である
 - 4. 大いに不満足である
- 意見など：7件

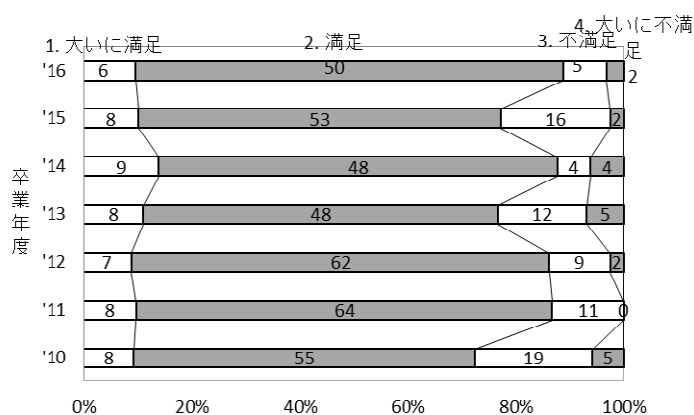
健康面に問題が「時々あった」院生の割合が2割おり、これらの院生に対する策を検討する必要がある。相談体制に関しては、「満足」している院生が8割となっており、現状の満足度は高い。



(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足できましたか。

- 1. 大いに満足である 2. 満足である
 - 3. 不満足である
 - 4. 大いに不満足である
- 意見など：8件

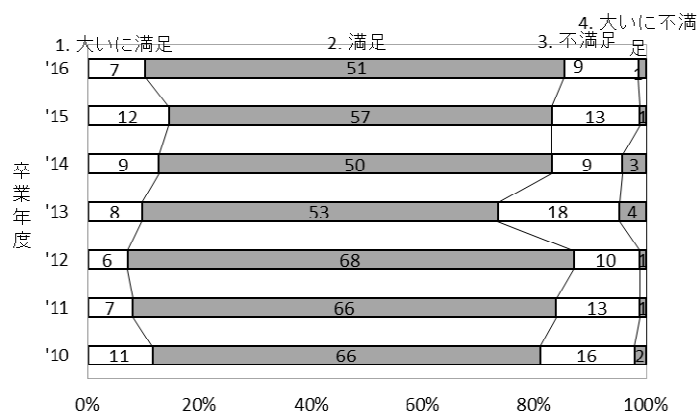
「満足である」が8割を占める多数となっている。



(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします。

- 1. 大いに満足である 2. 満足である
 - 3. 不満足である
 - 4. 大いに不満足である
- 意見など：4件

環境全体に関する満足度も高く、8割を越えている。記述欄を見る限り、残りの2割の不満は多岐にわたっており、個人的な問題も含め更なる調査が必要かもしれない。

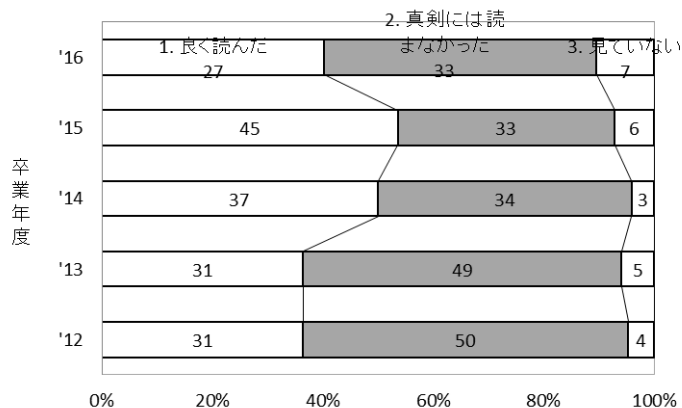


E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて

大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

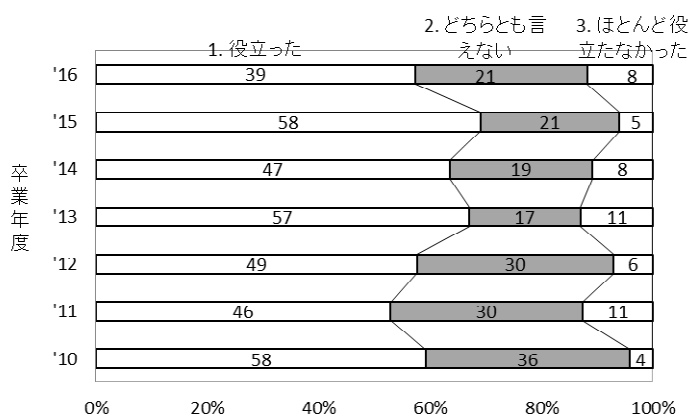
(E1) シラバスは良くよみましたか。

1. 良く読んだ
 2. 真剣には読まなかった
 3. 見ていない
- 意見など：4件



(E2) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

1. 役立った
 2. どちらとも言えない
 3. ほとんど役立たなかった
- 意見など：1件

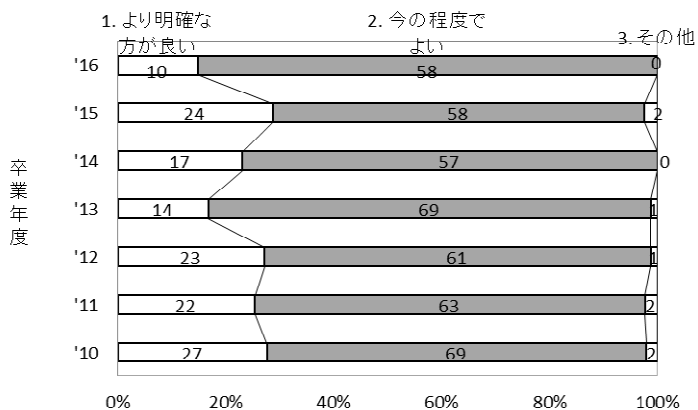


シラバスは「真剣には読まなかった」が、履修科目の選択には「役立った」ようである。

大学院の授業においてもある程度シラバスが利用されていることがわかる。一方、3割がシラバスを役立たなかったかについて「どちらとも言えない」としており、今後検討が必要である。

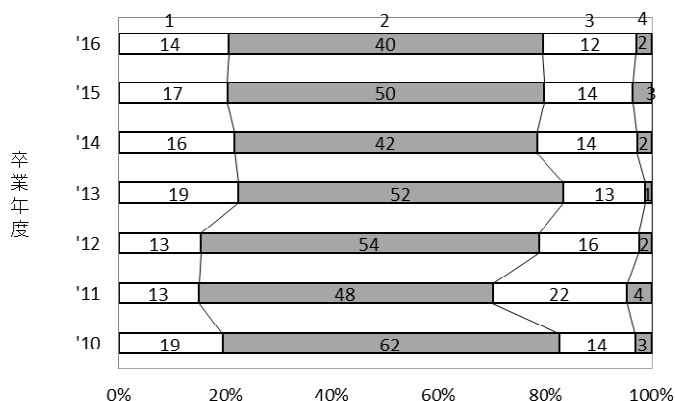
(E3) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

1. より明確な方が良い
 2. 今の程度でよい
 3. その他
- 意見など：0件



(E4) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか。

1. 行われている
 2. 多くの科目で行われている
 3. あまり行われていない
 4. その他
- 意見など：2件

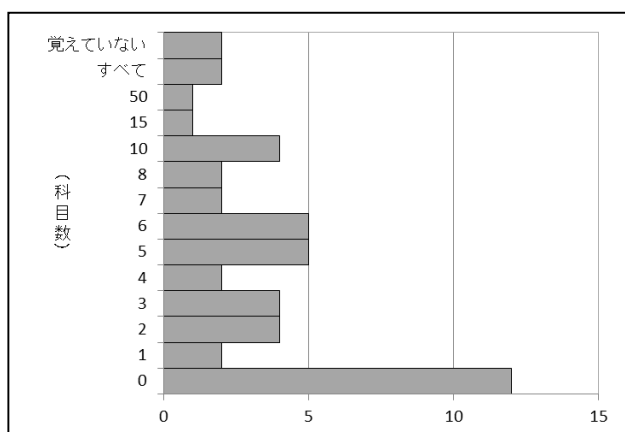


「多くの科目で行われている」が50%近くに達しており、特定の科目が厳格な成績評価を実施していない状況を表している。これらの事は、自由記述欄にも反映されており、全体というよりも少数の教員による問題かもしれない。学生に不公平感が発生しないように、する必要がある。

大学院の授業に対して行われた「授業改善のためのアンケート」についてお聞きします。

(E5) 在学中何科目の授業でアンケートに回答しましたか。

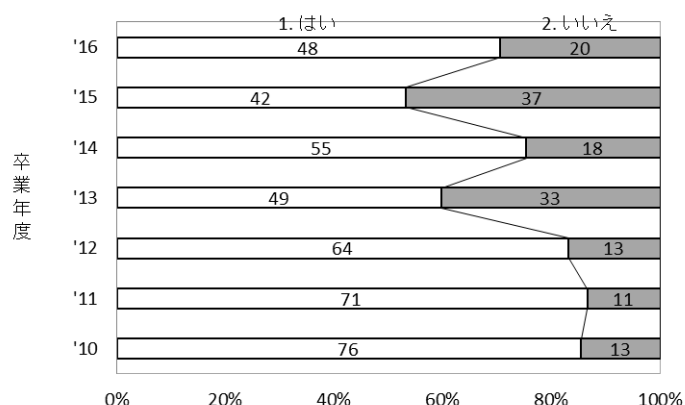
回答数：48件



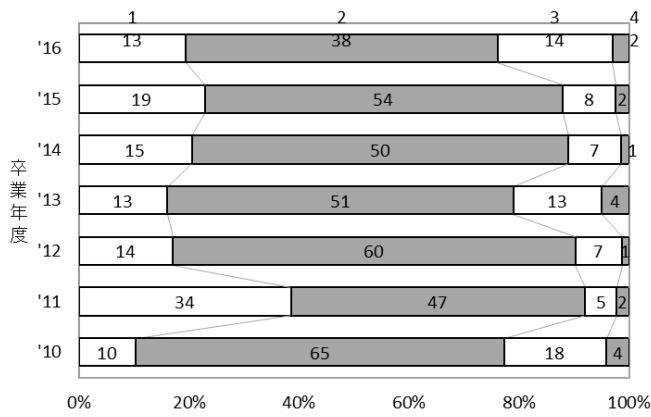
回答したことがないとする学生が30%にも達している。アンケートの意義や意見収集のフィードバックをもう少し改善すべきであろう。

(E6) アンケートの回答に積極的に協力しましたか。

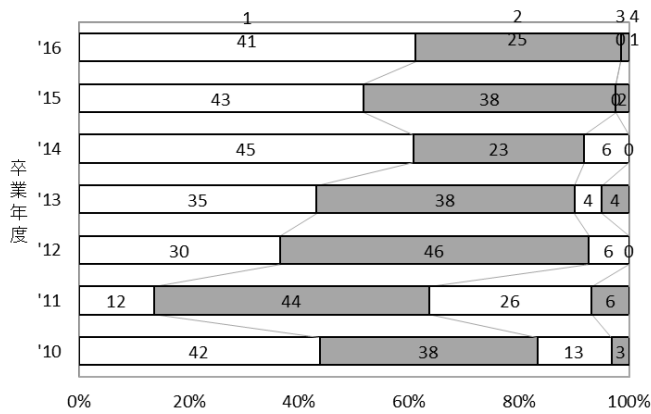
1. はい
 2. いいえ
- 意見など：0件



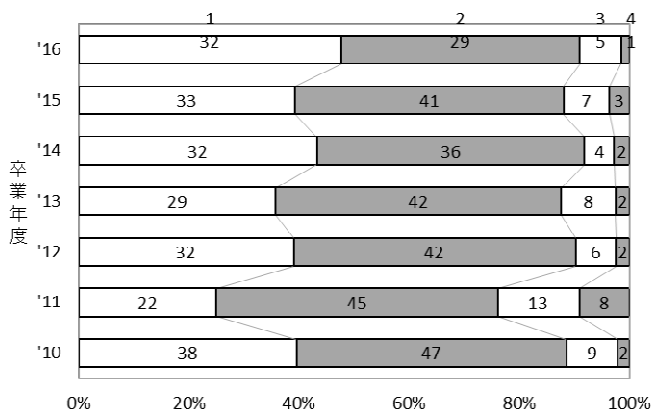
a. 授業科目の開設状況：



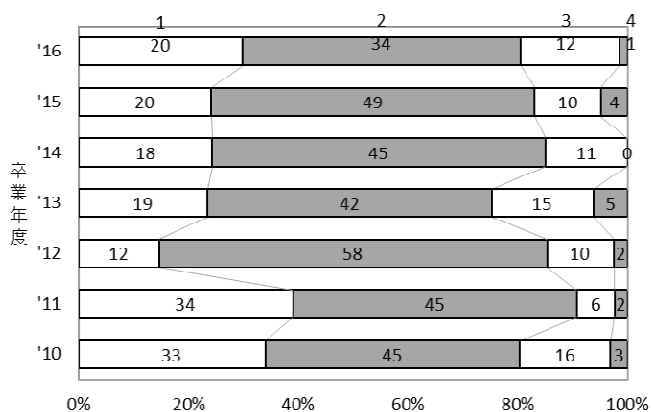
b. 修論等の指導：



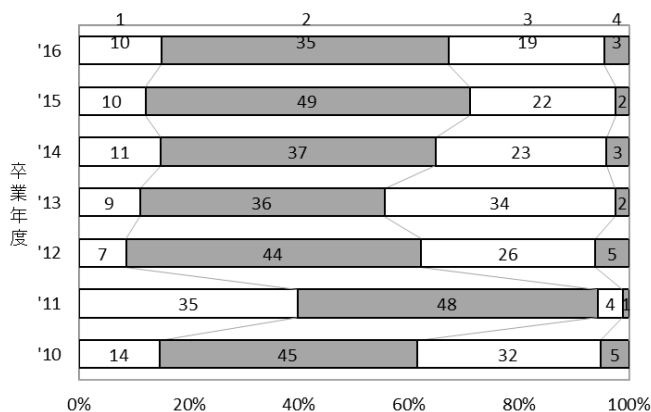
c. 研究室等での人間関係：



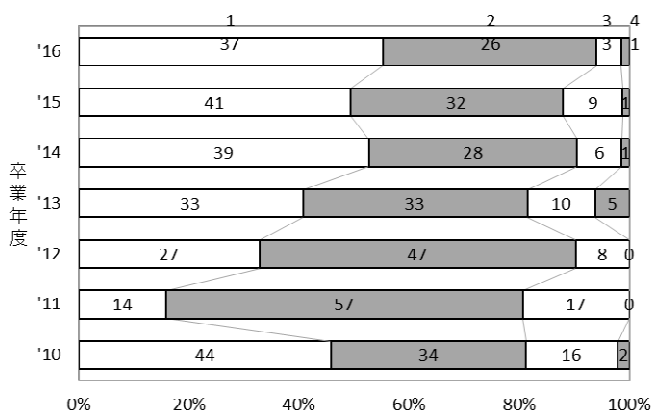
d. 施設や図書等の勉学環境：



e. 国際交流：



f. 教職員等の熱意・対応態度等：



意見など：5件

3年間分のアンケートを見ると、昨年度が一昨年・今年と少し異なることが見て取れる。これらについては今後もアンケート活動続けることで明らかにしていく必要があるだろう。